

# 営農情報

2019  
10月号 No.83



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課  
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

米原・近江支店担当 谷城 敏生  
携帯 080-4761-6531

## 今月の話題

- ◆ 米検査状況
- ◆ 滋賀県の作況指数 9/15現在
- ◆ 来年度に向けた収穫後の雑草・病害虫対策
- ◆ 天皇陛下即位礼正殿の儀（10/22）の営業について
- ◆ 食品安全に対するリスク管理
- ◆ 農地中間管理機構 受付開始
- ◆ 農政ダイジェスト

### メモ

- ✓ 米出荷後の生産工程管理日誌（10月）の提出準備はお済みですか？
- ✓ 土づくり資材予約申込 10月15日まで！ **お早めに**
- ✓ 第31回農業機械大展示会  
長浜バイオ大学ドームで11月8日～10日開催
- ✓ 廃棄農薬の回収  
日時：10/26（土） AM9：00～11：00  
回収場所：経済センター 伊吹資材センター  
米原資材センター

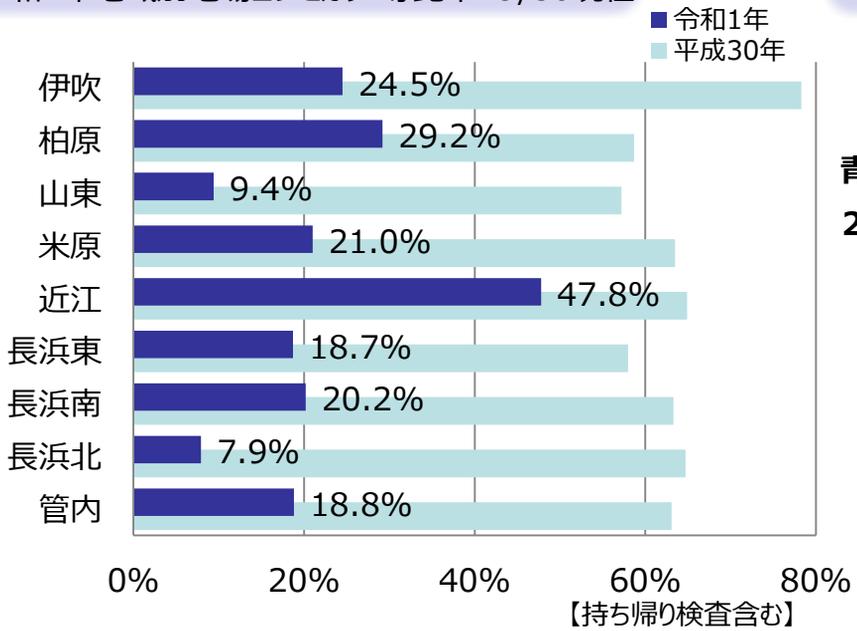


9月は近江カントリーへ1ヵ月間出向し、主に荷受・乾燥の機械作業を行いました。今年も暑い中での収穫作業となりましたが、たくさんの出荷をいただきありがとうございます。出荷いただいたお米は、今後実需者への出荷に向け準備を進めています。

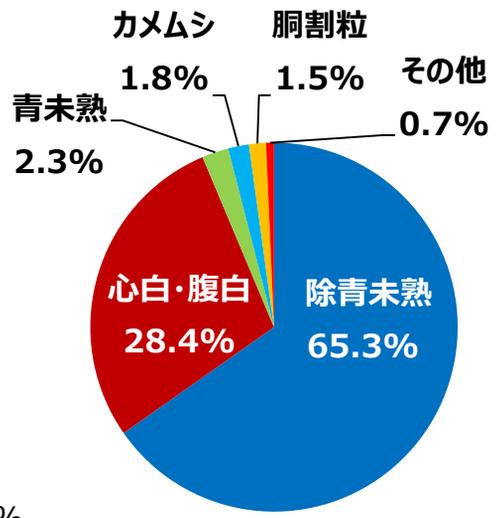
# 米検査状況 **速報!**

今年は6月下旬から7月にかけて日照不足と出穂以降8月の高温、8月中下旬の日照不足の影響により、米の品質と収量に影響がありました。レーク伊吹管内の一等米比率は18.8%で、滋賀県内平均47.9%よりも下回りました。

令和1年地域別地場コシヒカリ1等比率 9/30現在



2等以下の品質低下の要因



## 品質低下の対策

今年除青未熟粒・心白腹白粒の発生が多く見られ、品質が大きく低下しました。

### 主な対策

|        |   |
|--------|---|
| 除青未熟粒  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ やみ田の防止</li> <li>✓ 田植1か月で目標茎数の確保</li> <li>✓ 適期中干しや幼穂形成期の肥培管理による適正籾数の確保</li> </ul>   |
| 心白・腹白粒 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 遅植えによる登熟期の高温回避</li> <li>✓ 適正籾数の確保に向けた適期中干し</li> <li>✓ 出穂時の葉色確保</li> <li>✓ 出穂以降のこまめな入水による地温低下</li> <li>✓ 出穂以降の常時湛水管理</li> </ul> |

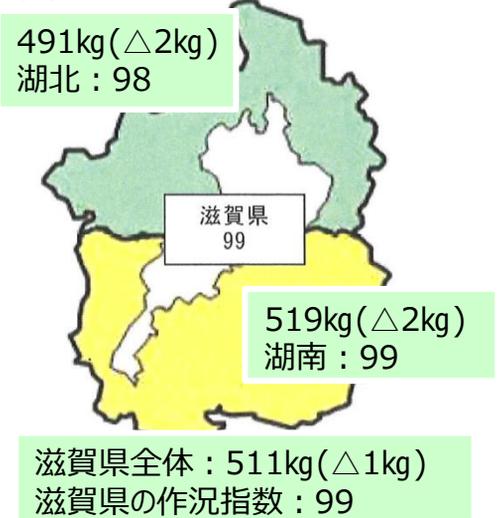
# 滋賀県の作況指数 9/15現在

## 【作柄概況】

- ✓ 穂数は6月下旬以降の日照不足の影響で「やや少ない」となり、1穂当たりもみ数は平年並みではあったが、穂数がやや少なくなったため、全もみ数が「やや少ない」となった。
- ✓ 登熟は、8月中下旬の日照不足や多雨の影響がみられる。
- ✓ 湖北地域は作況指数98でやや不良となる見込み。

## 【9/30 近畿農政局公表】

※ ( )内は前年差



## 【滋賀県の過去の品質不良の年】

- 平成11年産：1等比率45%(原因：高夜温)
- 平成14年産：1等比率49%(原因：高温)
- 平成22年産：1等比率43%(原因：高温)
- 平成26年産：1等比率51%(原因：日照不足)

# 来年度に向けた収穫後の雑草・病害虫対策

近年、オモダカ・クログワイの難防除雑草等が増加しており、また、地域によってはニカメイガ、紋枯病、いもち病などの病害虫の発生を見うけられます。来年度に向けて稲刈り後(年内)の対策が重要となります。

| 稲刈り後 | 10月 | 11月 | 12月 | 主な雑草と病害虫 |
|------|-----|-----|-----|----------|
|------|-----|-----|-----|----------|

オモダカ  
クログワイ

**ラクソフアップ**  
**マックスロフト**

- 茎葉に50倍液散布
- 稲刈り後、早めの散布
- 複数年継続すると効果が高い。

- 深耕と乾燥・凍結により発生抑制




ウリカワ  
セリ  
ミズガヤツリ  
キシウ  
スズメノヒエ

- プラウ耕などの反転耕による発生抑制の効果大。
- 深耕




ヒエ

- 秋の深耕(種子を地中深くに埋没させる)




キシウ  
スズメノヒエ  
アシカキ  
一年生雑草

**デンレートAZ粒剤**  
(5kg袋)

散布1か月後

- 稲刈り後に使用できる除草剤です。
- 10アール当たり**20~25kg**全面土壌散布。
- 水稲刈り取り後(秋期雑草生育期)の使用。  
(散布後**1か月**は、耕起しない！)
- 落花した草種には効果がない。
- 複数年継続すると効果が高い。




病害虫対策  
ニカメイガ  
紋枯病  
黄萎病  
いもち病

- 稲わらの鋤きこみ(深耕)はほ場で越冬する病害虫を減らす効果が期待できます。
- 出来るだけ早期耕うん。




## お知らせ 天皇陛下即位礼正殿の儀(10/22)の営業について

| 場所    | 経済センター                     | 米原資材センター                  | 伊吹資材センター                 |
|-------|----------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 日時    | 長浜市加田町3143<br>TEL: 63-2101 | 米原市下多良171<br>TEL: 52-1014 | 米原市杉沢726<br>TEL: 55-4080 |
| 10/22 | 午前中                        | ×                         | ×                        |

資材注文はお早めに



- 経済センターのみ午前中(A M 8:30~12:00)営業を行います。
- 引き取りのみ対応となるため、灯油・軽油等を含め配送業務は行いません。

# 食品安全に対するリスク管理

土づくり資材を散布することにより土壌PHが上昇し、カドミウムが水に溶けにくくなり水稻に吸収されにくくなります。規格基準以下にするため圃場の土壌PHに応じた田華の豊稲の散布を行いましょ。

土壌PHに基づく基準施肥量（10aあたり）

| 土壌PH  |    | 5.5～6.0 | 6.0～6.5   | 6.5以上 |
|-------|----|---------|-----------|-------|
| 田華の豊稲 | 砂状 | 80kg    | 60kg～80kg | 60kg  |
|       | 粒状 | 80kg    | 60kg～80kg | 60kg  |

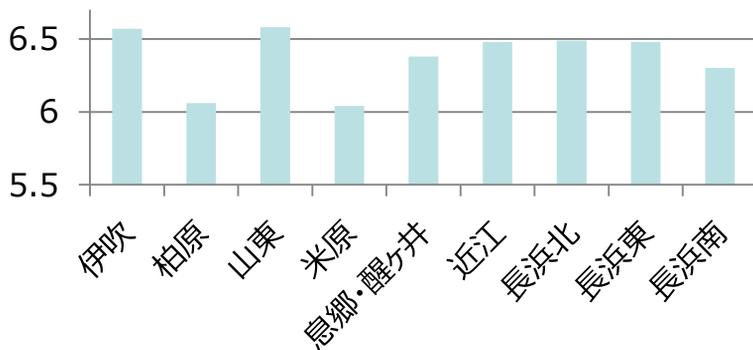
食品衛生法における玄米中  
カドミウムの規格基準は  
0.4ppm以下

カドミウム抑制対策のポイント

- ①土づくり資材(田華の豊稲)の散布
- ②出穂前後3週間の常時湛水管理



H30 地域別平均土壌PH値



※ご要望があれば簡易測定器にて土壌PHを測定をさせていただきます。営農経済渉外担当へご相談下さい。

## 農地中間管理機構 受付開始

知事指定の機関  
なので安心です

中間管理機構は、“農地の借受・貸付”を効率的に進めます。

| メリット   | 受付期間                  | 有効期限          |
|--|-----------------------|---------------|
| <b>農地を貸したい方(出し手)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 契約期間終了後、農地は確実に戻ります。</li> <li>● 機構へ貸付けた農地は課税が軽減される場合があります。</li> <li>● 賃借料は機構からの口座振入による支払。等々</li> </ul>          | 9月25日(水)<br>～11月8日(金) | 2020年<br>3月末日 |
| <b>農地を借りたい方(受け手)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地をまとまりのある形で借入る事が可能。</li> <li>● 農地を長期(10年以上)に借入でき、効率的、安定的な農業経営ができます。</li> <li>● 新規参入を目指す方も農地の貸付が可能。</li> </ul> | 通年<br>(随時受付)          | 2022年<br>3月末日 |

## ひと月の動き 農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋  
～定価(税込)618円 購読申込受付中～

### 19年産米の収穫予想は「平年並み」

(株)米穀データバンク(東京都)は、都道府県別の7月末までの気象データから2019年産米の収穫予想を発表。梅雨明けからの恵まれた天候を理由に、全国の作況指数を「平年並み」と予想した。

### 食糧自給率が37%で過去最低

農水省は、18年度の食料自給率(カロリーベース)が、前年度に比べ1ポイント低い37%だったと発表した。これは米が記録的不作だった1993年度と並び、過去最低。天候不順による小麦や大豆の生産量の減少が影響したとみられる。